

# Vol. 46 骨密度測定方法の種類と特徴

文責：診療放射線技師チーム 萩原

骨密度の測定方法は主に超音波とX線による測定方法に分けられます。これらの測定方法と特徴についてみていきたいと思います。



## 超音波による測定

**QUS法** 踵を使って測定する。  
X線を使わないため妊娠中でも検査可能である。  
温度の影響を受けやすく、結果にバラツキが出やすい。



## X線による測定

**①MD法** 両手とアルミステップを同時にX線撮影し濃度を比較する。検査装置を必要とせず、診療所等でも検査可能なため広く普及している。第2中手骨部分は骨の構造の特徴により、早期段階の骨密度減少を画像でとらえることは困難であると言われている。



**②DEXA法** 2種類のX線を使い濃度差で判定するため、精度が高く安定している。  
主に2つの部位で測定が行われている。  
1) 腰椎および大腿骨頸部  
最も正確とされておりガイドラインでも推奨されている。



### 2) 非利き腕前腕

ガイドラインでは腰椎による検査ができない場合の選択として推奨されており、簡便で短時間での測定が可能である。



当センターでは、2)の非利き腕前腕を使った**DEXA法**による骨密度測定装置を使用しています。骨粗しょう症を早めに発見するために定期的に骨密度測定を受けましょう。



当センターには、保健指導担当の保健師、管理栄養士、健康運動指導士がいます。健診の際は、お気軽にご相談ください。